10.12.12受

謹啓　大正十年も正に逝かんとして居ります
貴殿には彌々御健勝の由何よりと存じます
扨て私共勞働者に採りて我國未曾有の多事であつた大正十年は全く追憶の悲しみ深き年でありました
あの激しい階級戰　それより得たる體驗、向後の戰の上に與へたる多くの暗示等、數へ來らば感慨無量に堪へません
取り分け私共電業員組合は此年實に多くを皆樣から教わりました　それは誠に感謝の至りであると共に今年の別れに一層の悲しみを添へます
然し私共はそうした中から生れ出でし一ッの愉悅を持つて居る事を皆樣に御知せせなければなりません　それは私共の組合の機關紙を、明春より愈々永き宿望であつた新聞紙法に依つて改造新聞と命名して發刊する事であります
これは全く私共には生氣に充ちた大正十一年を迎ふると共に希望の愉悅であります
然し之れとて皆樣の御同情と御援助なくして到底私共の微力を以つてしては爲し能はない事で、こうして私共が今日この愉悅を携へ皆樣の御恩に反かずと私共はよい成長を續けて居るといふ事を御知せする事の出來るを何よりうれしく思ひます。
擱筆に望み貴殿の御健康を祈り併せて今後共何分の御指導を切に祈り申します。

追つて改造新聞新年創刊號に是非共貴殿の御玉稿を賜り度く御願申上ます

大正十年十二月十日

電業員組合

殿